

あいちトリエンナーレ 2019

モバイル・トリエンナーレ
開催報告書

モバイル・トリエンナーレ

AICHI TRIENNALE 2019

MOBILE TRIENNALE

DOCUMENT BOOK

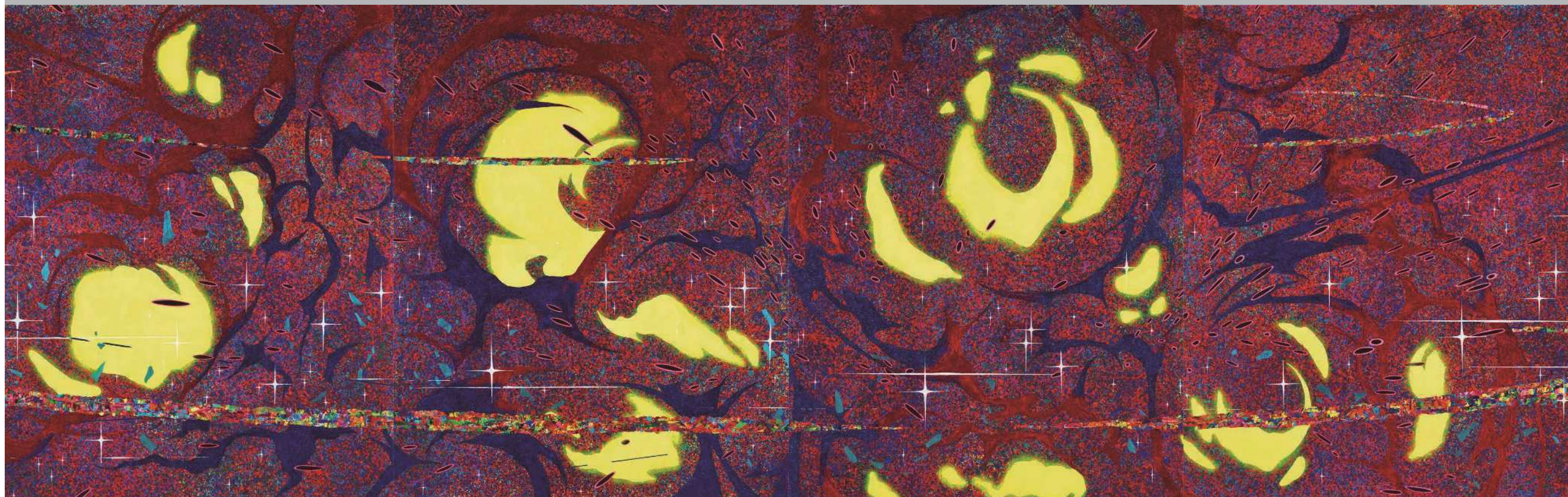
情の時代



あいち
トリエンナーレ
2019

AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y'Our Passion

2019



情の時代



あいち
トリエンナーレ
2019
AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y-Our Passion

あいちトリエンナーレ 2019

モバイル・トリエンナーレ

開催報告書

写真撮影：岡村靖子、加藤慶次、大坪奈央（以上、株式会社VA）、あい撮りカメラ部

編集：飯田志保子、塩津青夏、石川達紘、三木 茜、山名祭里

デザイン：岡田和奈佳

発行日：2020年3月

部数：350部

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会

表紙：藤原 葵《Devastation》

AICHI TRIENNALE 2019

MOBILE TRIENNALE

もくじ

02 ごあいさつ

03 開催概要

展示風景

04 設楽町

10 津島市

16 小牧市

22 東海市

28 会場紹介

30 作品リスト

32 アンケート

34 メディア掲載

文谷有佳里

BUNYA Yukari

藤原 葵

FUJIWARA Aoi

葛宇路（グウ・ユルー）

GE Yulu

今村洋平

IMAMURA Yohei

今津 景

IMAZU Kei

石場文子

ISHIBA Ayako

加藤 翼

KATO Tsubasa

榎本佳子

MASUMOTO Keiko

永田康祐

NAGATA Kosuke

パンクロック・スウラップ

Pangrok Sulap

サエボーグ

Saeborg

Sholim

Sholim

菅 俊一

SUGE Syunichi

トモトシ

tomotosi

碓井ゆい

USUI Yui

和田唯奈（しんかぞく）

WADA Yuina (Shinkazoku)

鷲尾友公

WASHIO Tomoyuki

弓指寛治

YUMISASHI Kanji

カタリーナ・ズィディエーラー

Katarina ZDJELAR

あいちトリエンナーレ 2019

モバイル・トリエンナーレ

開催報告書

ごあいさつ

愛知県内の4ヶ所を移動する小さな展覧会「モバイル・トリエンナーレ」。3回目となる今回も、多くの来場者の皆さまをお迎えし、ご好評をいただきました。今回は19組のアーティストによる作品を展示し、4組のアーティストが各会場で異なるテーマのワークショップを行いました。主に本展における展示とは別の作品をご紹介します、それらの会場での展示とはまた別の角度から「情の時代」というテーマに触れていただけたのではないのでしょうか。展覧会が好きな方だけではなく、普段あまり現代美術を鑑賞する機会のない方にとっても、「ここでしか見られない展示」を楽しんでいただき、身近に感じていただく機会となりました。

作品出品やワークショップ実施にご賛同いただいたアーティストの皆さまをはじめとして、開催にあたり様々な形でご協力いただいた関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

あいちトリエンナーレ実行委員会

あいちトリエンナーレ

あいちトリエンナーレは、2010年から3年ごとに開催されている国内最大規模の国際芸術祭。4回目となる今回は、国内外から93組のアーティストを迎え、国際現代美術展のほか、映像プログラム、パフォーミングアーツ、音楽プログラムなど、様々な表現を横断し作品を紹介。

過去のあいちトリエンナーレ開催地域：
2010年：名古屋市
2013年：名古屋市、岡崎市
2016年：名古屋市、岡崎市、豊橋市

あいちトリエンナーレ 2019

芸術監督：
津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

テーマ：
情の時代 Taming Y/Our Passion

会期：
2019年8月1日(木)-10月14日(月・祝) [75日間]

主な会場：
愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、
名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、
豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)

主催：
あいちトリエンナーレ実行委員会

モバイル・トリエンナーレ

2回目のあいちトリエンナーレが開催された2013年からはじまった、愛知県内の市町村を移動する小さな展覧会で。あいちトリエンナーレの地域的な広がりを持たせるとともに、主に本展出品作とは異なる作品を展示しながら、トリエンナーレのエッセンスをお伝えします。週末のみ開催する3日から4日間という短い会期ながら、作品ガイドツアーやワークショップなど、子どもから大人まで楽しめるプログラムを展開します。

過去のモバイル・トリエンナーレ開催地
2013年：豊橋市、知多市、春日井市、東栄町
2016年：設楽町、大府市、一宮市、安城市

会期：
延べ13日間

会場と来場者数：
・設楽町／設楽町田口特産物振興センター
8月23日(金)-25日(日)／3日間／302人
・津島市／津島市文化会館
8月30日(金)-9月1日(日)／3日間／609人
・小牧市／小牧市市民会館・公民館
9月6日(金)-8日(日)／3日間／468人
・東海市／東海市芸術劇場、大屋根広場
9月20日(金)-23日(月・祝)／4日間／558人

主催：
あいちトリエンナーレ実行委員会
・設楽町会場 設楽町、設楽町教育委員会
・津島市会場 津島市、津島市教育委員会
・小牧市会場 小牧市、小牧市教育委員会、
一般財団法人こまき市民文化財団
・東海市会場 東海市、東海市教育委員会

作品点数：
52点

合計来場者数：
1,937人(ワークショップ参加者を含む)

モバイル・トリエンナーレ 参加アーティスト：

文谷有佳里

藤原 葵

葛宇路(グウ・ユルー)

今村洋平

今津 景

石場文字

加藤 翼

梶本佳子

永田康祐

パンクロック・スウラップ

サエ ボーグ ・東海市会場のみ

Sholim

菅 俊一

トモトシ

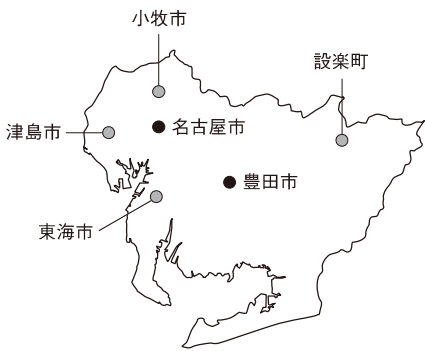
碓井ゆい

和田唯奈(しんかぞく)

鷲尾友公

弓指寛治

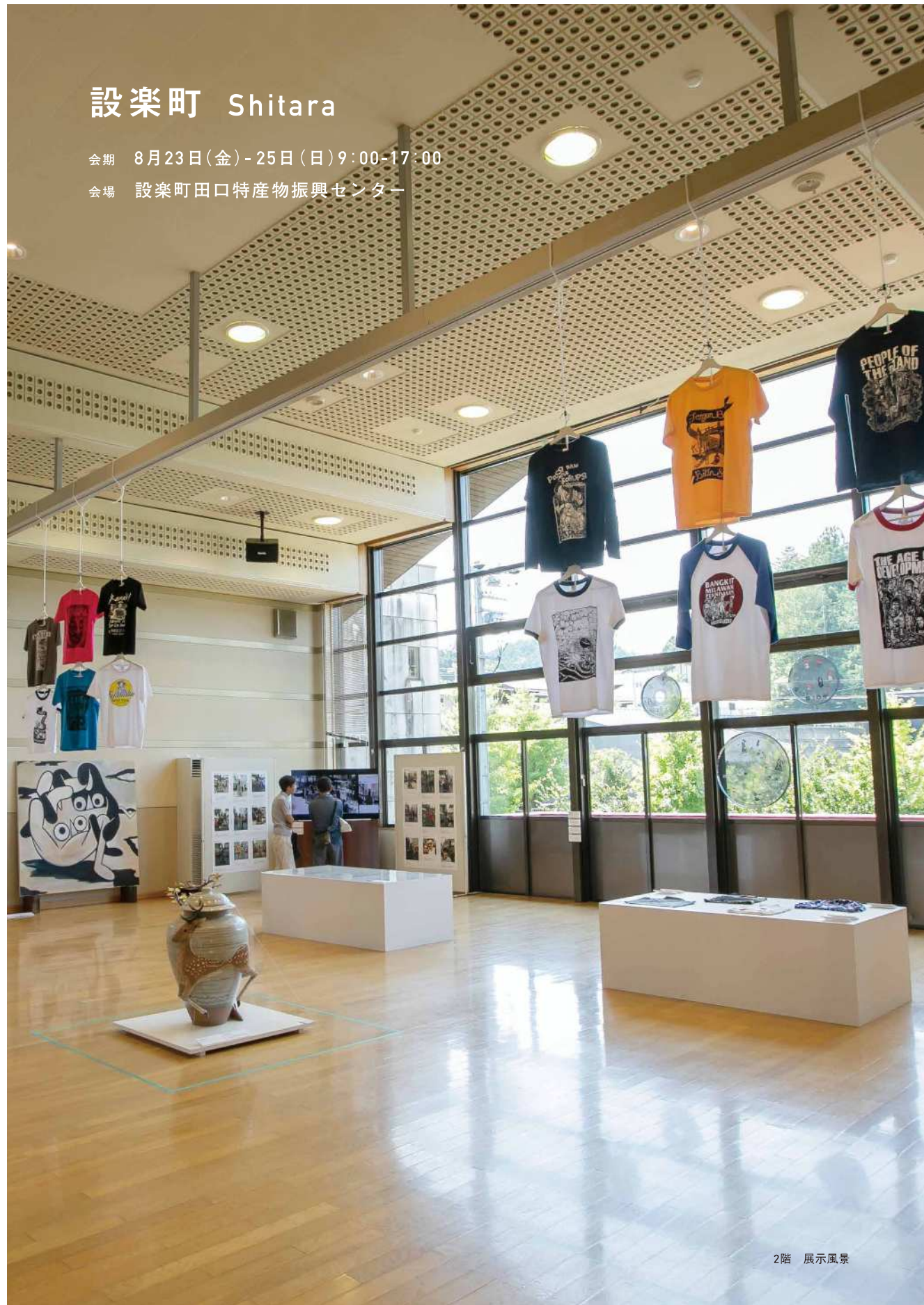
カタリーナ・ズィディエラー



設楽町 Shitara

会期 8月23日(金)-25日(日)9:00-17:00

会場 設楽町田口特産物振興センター



2階 展示風景



上:ワークショップ風景 下:作品ガイドツアー風景



ワークショップ with アーティスト

パンクロック・スウラップ

「一緒に彫ろう、木版画ワークショップ！」

サバ州ラナウ(マレーシア)で結成されたアーティスト集団「パンクロック・スウラップ」と一緒に、彫刻刀で木板に絵柄を彫り、メンバーが演奏する音楽に合わせて木版の上に乗って参加者皆で布に木版画を刷りました。

日時:8月24日(土)、25日(日) 10:00-16:00

会場:設楽町田口特産物振興センター 振興室Ⅲ

対象:10歳以上(10歳未満は、刷り体験のみ参加可能)

参加者数:8月24日/15人 8月25日/21人

作品ガイドツアー:

8月24日(土)10:00/14:00

8月25日(日)10:00/15:00(各30分間)



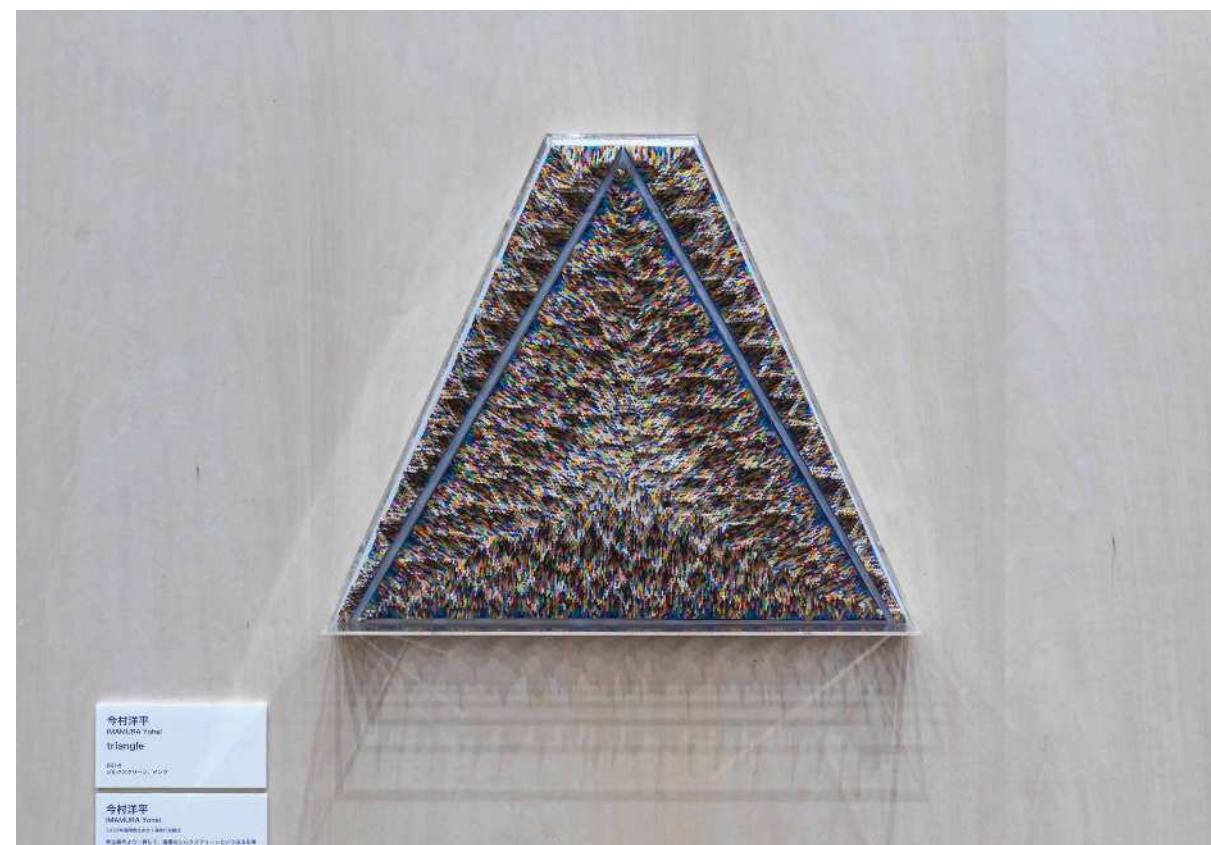
津島市 Tsushima

会期 8月30日(金)- 9月1日(日)9:00-17:00

会場 津島市文化会館



作品ガイドツアー風景



上:今村洋平《triangle》 下:展示風景



ワークショップ with アーティスト

鷲尾友公「お家に絵を飾ろう！」

「お家に絵を飾るとしたらどこに飾ろうかな。」と想像しながら、キャンパスにアクリル絵の具で絵を描き、好きな部分を切り取って、木材に貼り、作品を制作しました。

日時:9月1日(日)14:00-15:30

会場:津島市文化会館 研修室

対象:小学1年生以上

参加者数:20人

作品ガイドツアー:

8月31日(土)、9月1日(日)

各日10:00/14:00(各30分間)



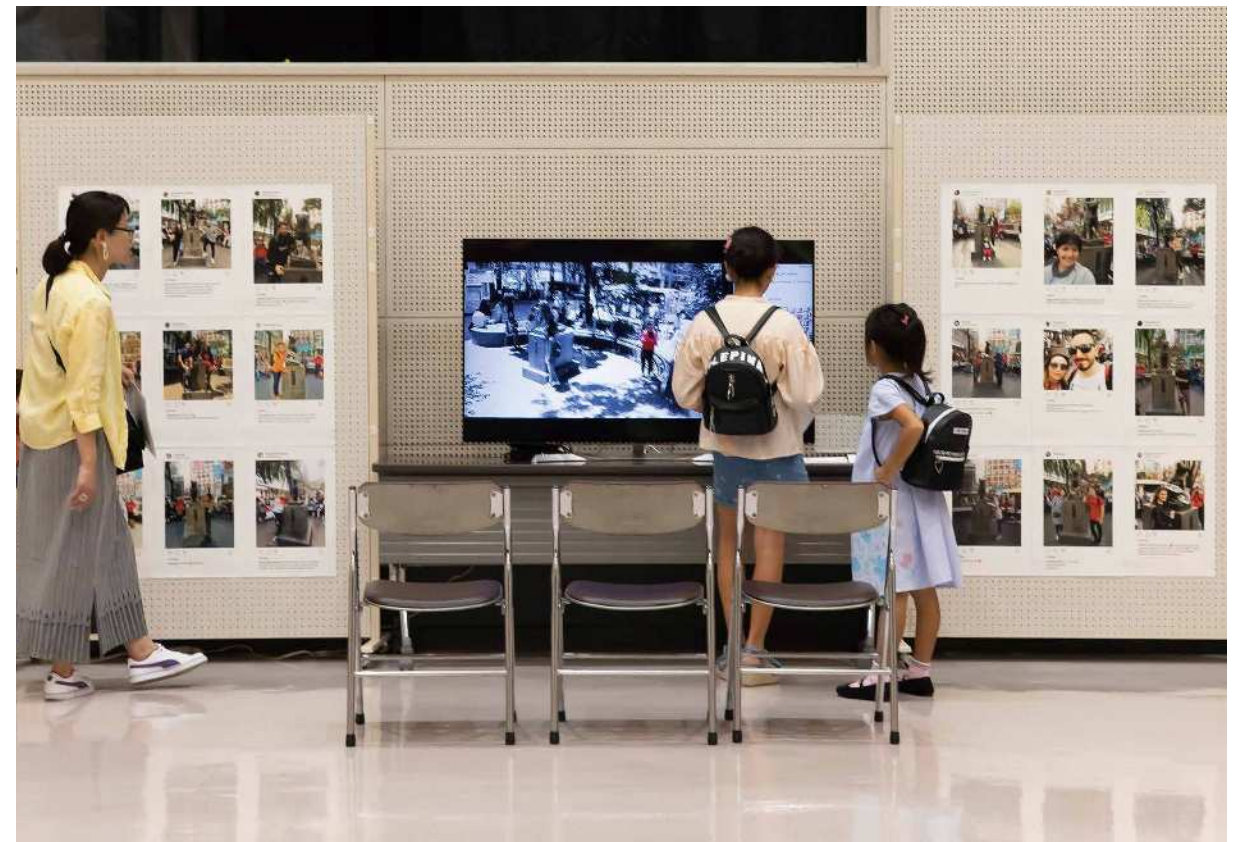
小牧市 Komaki

会期 9月6日(金)- 8日(日)9:00-17:00

会場 小牧市市民会館・公民館



講堂 展示風景



上: トモトシ《photobomber_tomotosi》 下: 菅 俊一《その後を想像する(別バージョン)》 Sholim(Sholim Inspired by Tokyo Story)



ワークショップ with アーティスト

今村洋平

「本格的なシルクスクリーンを体験しよう！」

版画の一種であるシルクスクリーンのワークショップを行いました。自然感光させた版を使用して、様々な物に転写を行う本格的なシルクスクリーン制作を体験しました。

日時：9月8日(日) 10:00-16:00

会場：小牧市市民会館・公民館 創作室

対象：小学1年生以上

参加者数：12人

作品ガイドツアー：

9月7日(土)、9月8日(日)

各日11:00 / 14:00(各30分間)



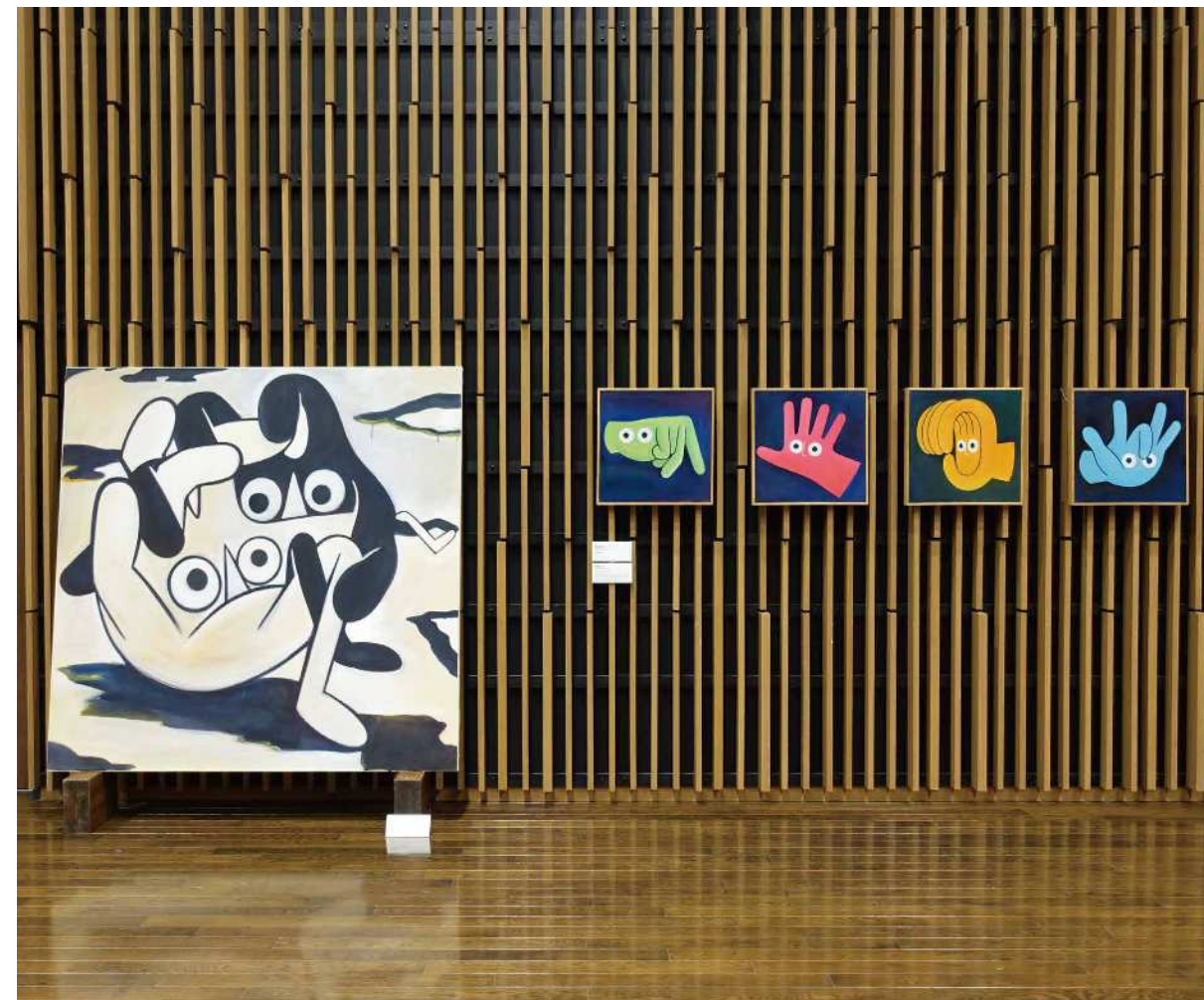
東海市 Tokai

会期 9月20日(金) - 23日(月・祝) 9:00-18:00

会場 東海市芸術劇場、大屋根広場



碓井ゆい「shadow of a coin」シリーズより



鷺尾友公〈untitled〉



上: サエボーグ (Pigpen) 下: 作品ガイドツアー風景



上: 葛宇路 (グウ・ユルー) 《葛宇路》映像キャプチャ 中: 1階多目的ホール 展示風景 下: 今津 景 (untitled)

ワークショップ with アーティスト

碓井 ゆい

「透ける布で窓飾りを作ろう！」

直径20cmの刺繍枠に張ったオーガンジー生地を使ったワークショップを行いました。自由に切った布を生地に縫いつけたり、好きな模様や図柄の刺繍を施した窓飾りを制作しました。

日時：9月22日（日）14:00-16:00

会場：東海市芸術劇場 美術室

対象：どなたでも（未就学児は保護者同伴）

参加者数：15人

作品ガイドツアー：

9月21日（土）、23日（月・祝）

各日10:00／14:00（各30分間）



会場紹介

設楽町

モバイル・トリエンナーレの始発地である設楽町は、愛知県の北東部に広がる三河山間地域の中央に位置し、1,000m級の山々が連なる森林や豊川、津具川など豊かな自然に恵まれた魅力的なまちでした。展覧会には、町内外から多くの方に来場していただき、子どもから大人まで現代アート作品を興味深く鑑賞していました。また、出展アーティストであるパンクロック・スウラップ（マレーシア・サバ州出身）が「一緒に彫ろう、木版画ワークショップ！」と題して、町の特産物や文化財などをテーマとした木版画アート体験を開催しました。参加者は、アーティストが奏でる陽気な音楽に合わせて木版画を制作し、作品が完成した際には、会場内にひときわ大きな歓声が上がりました。

設楽町田口特産物振興センター

愛知県の北東部に位置する人口約4,700人の町の中心地に建つ施設。設楽町の林業、農業の振興と地域活性化のため、特産物の展示・販売や講演会等が開催されます。



津島市

2つめの開催地・津島市では、津島市文化会館の小ホール、視聴覚室、会議室、そして和室をお借りして、それぞれの空間に合った展示を行いました。畳の上に腰をおろして鑑賞する和室での展示は、作品との距離もぐっと近くに感じられたのではないのでしょうか。愛知県出身のアーティスト、鷺尾友公によるワークショップ「お家に絵を飾ろう！」には、大勢の子どもたちが参加。床に広げた大きなキャンバス生地に“夏の思い出”をテーマに絵を描き、気に入った構図に切り取って木枠に張り込みました。新学期間近の9月、日焼けした子どもたちが、「ああだったね、こうだったね」とご家族と話しながら制作に打ち込む姿が印象的でした。（三木 茜）

津島市文化会館

愛知県の西部に位置する人口約6.2万人の市の名鉄津島線沿線に建つ施設。市民の文化・スポーツ事業や地域のコミュニティ活動に利用できるよう、大小の多目的ホールや会議室をはじめ、研修や文化事業に適した設備を備えています。



小牧市

小牧市のシンボルである小牧山は、戦国時代には、織田信長が山頂に築城し、その後、約4年で廃城、のちに豊臣秀吉と徳川家康が戦った「小牧・長久手の合戦」では、家康がこの地に本陣を置いたとされる、歴史あるまちです。展示会場の小牧市市民会館・公民館では、映像作品2点を茶室で展示しました。菅俊一《その後を、想像する》はアニメーションの最後の一瞬が隠されて提示されます。茶室という狭く閉じた空間で鑑賞することによって、より深く作品と向き合えたのではないのでしょうか。美術館とはまた違う鑑賞体験ができるのはモバイル・トリエンナーレの醍醐味です。今村洋平のワークショップでは、シルクスクリーンという版画の技法を体験しました。参加者お互い協力しながら版を押さえ、和気藹々とした雰囲気で作りました。今村は「最初はシルクスクリーンが苦手で、上手くできず、10層程重ねてみたらそのレイヤーが面白く、作品に繋がった。苦手なもののほど挑戦してみると、新しい発見がある」と出展作品の発端を語ってくれました。（山名祭里）

小牧市市民会館・公民館

愛知県の北西部に位置する人口約15万人都市の文化や芸術、生涯学習活動を担う施設。文化祭や様々なイベント等が行われるホールのある市民会館と展示や講堂、音楽スタジオを備えた公民館の複合施設であり、多くの市民に親しまれています。



東海市

モバイル・トリエンナーレの終着地は東海市芸術劇場。サエボーグの《Pigpen》がパフォーミングアーツの公演の舞台装置・衣装としての出番を終えたのちに、インスタレーションとして展示されました。ラテックスで作られた巨大な豚の親子は、東海市会場限定の作品として、その大きさと可愛らしさの中に見え隠れする不気味さで、来場者を驚かせていました。また、碓井ゆいによるワークショップ「透ける布で窓飾りを作ろう！」では、刺繍枠に張ったオーガンジー生地の上から、参加者が好きな布を選んで刺繍することで作品を制作しました。彼女の作品の特徴と同様に、参加者も光の透過による変化を楽しみながら、夢中で針を走らせていました。（石川達紘）

東海市芸術劇場、大屋根広場

知多半島の北西端に位置する人口約11.5万人都市の文化芸術の発信・創造の拠点となる文化施設。平成27年（2015年）10月の開館以来、音楽、ダンス、演劇から美術展、サークル活動まで幅広い活動に利用されています。



作品リスト

文谷有佳里

《なにもない風景を眺める 2018.7.30》
2018 | 鉛筆、紙

《なにもない風景を眺める 2018.7.31》
2018 | 鉛筆、紙

《なにもない風景を眺める 2017.8.17》
2017 | ボールペン、紙

《なにもない風景を眺める 2017.9.11》
2017 | ボールペン、紙

《なにもない風景を眺める》
2017 | 鉛筆、ボールペン、紙

《なにもない風景を眺める 2018.8.1》
2018 | 鉛筆、紙

《なにもない風景を眺める 2018.8.3》
2018 | 鉛筆、紙

《なにもない風景を眺める 2018.8.12》
2018 | 鉛筆、紙

《なにもない風景を眺める 2019.6.13》
2019 | ボールペン、紙

《なにもない風景を眺める 2019.6.24》
2019 | ボールペン、紙

《なにもない風景を眺める 2019.6.25》
2019 | ボールペン、紙

藤原 葵

《Devastation》
2018 | ミクストメディア

葛宇路(グウ・ユルー)

《葛宇路》
2016-2017 | シングルチャンネル・ビデオ |
3min 26sec.

今村洋平

《triangle》
2014 | シルクスクリーン、インク

今津 景

《untitled》
2016 | 油彩、キャンバス

石場文子

《2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -台所-》
2019 | インクジェットプリント

《2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -7時12分-》
2019 | インクジェットプリント

加藤 翼

《Woodstock 2017》
2017 | シングルチャンネル・ビデオ | 4min 7sec.

榎本佳子

《鹿／壺》
2011 | 陶

永田康祐

《Function Composition》
2016 | インクジェットプリント、紙、プレキシガラス

《Function Composition》
2018 | インクジェットプリント、紙、プレキシガラス

パンクロック・スウラップ

《設楽町》
2019 | 木版画(2点組)

《Koinobori Below The Wind》
2019 | Tシャツ

《Jangan Beli Bikin Sendiri (Don't buy do it yourself)》
2019 | Tシャツ

《Posisi Bukan Unt Uk Korups! (Position is not for corruption)》
2019 | Tシャツ

《The Age of Development》
2019 | Tシャツ

《Bangkit Melawan Penindsan (Stand up against oppression)》
2019 | Tシャツ

《Sakura In Kinabalu》
2019 | Tシャツ

《Live & Survive》
2019 | Tシャツ

《People of the Land》
2019 | Tシャツ

《Unity Diversity》
2019 | Tシャツ

《Kaamatan (Harvest Festival)》
2019 | Tシャツ

《Aramaiti Kotobian Tadau Tagayo Do Kaamatan
(Cheers, Happy Harvest Festival)》
2019 | Tシャツ

《Laut Adalah Ke Hidupan (Ocean is a life)》
2019 | Tシャツ

サエボーグ

《Pigpen》
2016 | ラテックス

Sholim

《Sholim Inspired by Tokyo Story》
2019 | GIF

菅 俊一

《その後を想像する(別バージョン)》
2019 | シングルチャンネル・ビデオ | 5min 11sec. (loop)

トモトシ

《photobomber_tomotosi》
2018 | シングルチャンネル・ビデオ、アーカイブ |
2min 40sec.

碓井ゆい

《shadow of a coin #1》
2013 | オーガンジー、刺繍糸

《shadow of a coin #4》
2013 | オーガンジー、刺繍糸

《shadow of a coin #5》
2016 | オーガンジー、刺繍糸

《shadow of a coin #6》
2016 | オーガンジー、刺繍糸

《something red #1》
2017 | ミクストメディア

《something red #2》
2017 | ミクストメディア

《something red #3》
2017 | ミクストメディア

《something red #5》
2017 | ミクストメディア

和田唯奈(しんかぞく)

《Days C (絵本『ぽっかりちゃん』より)》
2018 | パネルに綿布、アクリル、ラインストーン、ラメ、樹脂

鷲尾友公

《untitled》
2018 | キャンバス、アクリル

《untitled》
2018 | キャンバス、アクリル、木(4点組)

弓指寛治

《夢のアトリエ》
2019 | 木製パネルに貼った新聞、アクリル

《銃・太郎》
2018 | 木製パネルに貼った新聞、アクリル

カタリーナ・ズィディエーラー

《AAA (Mein Herz)》
2016 | シングルチャンネル・ビデオ | 4min 30sec.

来場者アンケート

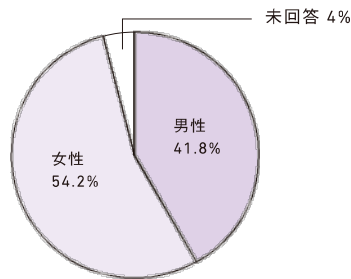
来場者1,937人の内、アンケートには834人の方々にご協力いただきました。展示内容に関しては、良かった37.3%、まあ良かった48.3%など、8割以上が高評価を示していました。その理由として、「現代アートにふれる機会が普段はないので、面白かった」、「感情が揺さぶられる作品に出会えてよかった」、「それぞれの展示が見やすかった。特に和室の使い方が良かった」、「名古屋市、豊田市の会場とは違う雰囲気作品を楽しむことができてよかった」などの回答がありました。特に作品ガイドツアーについての意見が多くあり、スタッフの作品説明を聞いたことで、子どもから大人までがより現代アートの魅力を感じていただくことができました。また、ワークショップについても「アーティストの方や参加者の方と交流できてよかった」、「自分たちで絵を描けるのがいいと思った」、「家族でゆったり絵を描くことができ、楽しい一日でした」などの回答がありました。アーティストと一緒に様々な技法を体験し、作品制作の面白さを体感していただくことができました。

来場者数：1,937人 回答者数：834人

回答者の属性

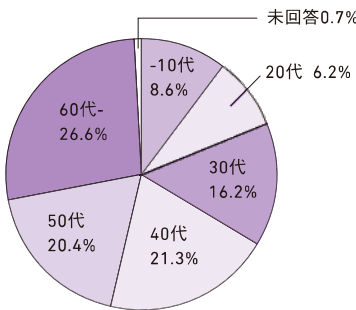
● 性別

男性	349	41.8%
女性	452	54.2%
未回答	33	4%
計	834	100%



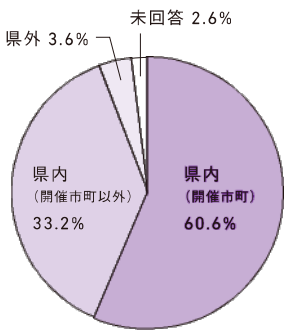
● 年代

-10代	72	8.6%
20代	52	6.2%
30代	135	16.2%
40代	178	21.3%
50代	170	20.4%
60代-	222	26.6%
未回答	5	0.7%
計	834	100%



● 住まい

県内(開催市町)	505	60.6%
県内(開催市町以外)	277	33.2%
県外	30	3.6%
未回答	22	2.6%
計	834	100%

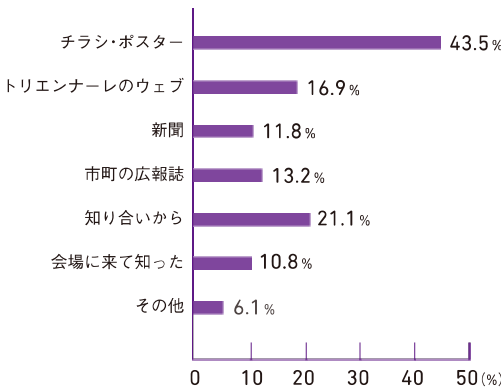


来場理由

● モバイル・トリエンナーレを

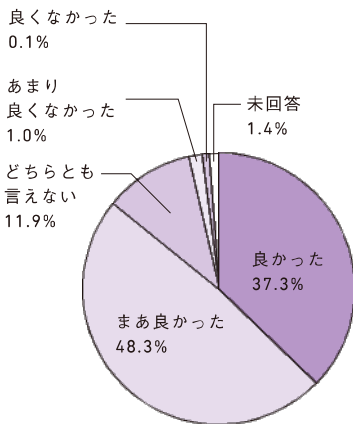
どのようにお知りになりましたか(複数回答可)

チラシ・ポスター	363	43.5%
トリエンナーレのウェブ	141	16.9%
新聞	98	11.8%
市町の広報誌	110	13.2%
知り合いから	176	21.1%
会場に来て知った	90	10.8%
その他	51	6.1%
計	1,029	



● 展示の内容はいかがでしたか

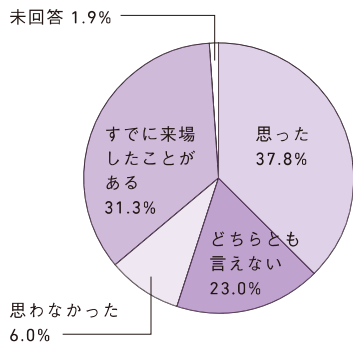
良かった	311	37.3%
まあ良かった	403	48.3%
どちらとも言えない	99	11.9%
あまり良くなかった	8	1.0%
良くなかった	1	0.1%
未回答	12	1.4%
計	834	100%



● 本日の展示を見て、名古屋市や豊田市で開催している

あいちトリエンナーレ2019の会場に行ってみたいと思いましたか

思った	315	37.8%
どちらとも言えない	192	23.0%
思わなかった	50	6.0%
すでに来場したことがある	261	31.3%
未回答	16	1.9%
計	834	100%



メディア掲載

● 令和元年8月31日(土) 中日新聞 朝刊

現代アート 身近に感じて



「現代アート」に親近感が湧いた。D.E. Vastation「津島市文化会館」にて。

あいちトリエンナーレ 2019

出展作家の絵画など40点

名古屋などで開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」に出展するアーティストの作品が楽しめる展覧会「モバイル・トリエンナーレ」が津島市藤浪町三の津島市文化会館で開催されている。九月一日まで。(後世古蔵)

国内外で活躍する十八人のアーティストが手掛けた完成の絵とどうもなれない約四十点の画や映像作品などが紹介されている。

出展作家の一人、現代アートはテーマに描いた巨大な絵画「Devastation」(一層・二層・三層・七層)は、人々を「新世界」紀元ワンリオン」にも使われた効果表現を用いて、神秘的な破壊的な世界を表現、先住民が直面する社会問題などに取る視点を、アートのアーティスト集団「パンクロック・スワップ」が二二・二十五日に津島市で、住民も参加して制作した新作木版画も初公開されている。

展覧会の出展者は「現代アートは分りにくいと聞かれる方も多いが、自由な観て見ていただければ楽しめるので気軽にきてほしい」と呼び掛けている。

入場無料。お問い合わせは「トリエンナーレ」実行委員会事務局。052・941・6111。

津島で関連展示

● 令和元年9月2日(月) 中日新聞 朝刊

トリエンナーレ作家 鷲尾さんが絵画講座

津島で親子向け 名古屋などで開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」に出展



する美術家、鷲尾友公さん(四二)「同市北区」による体験型の絵画講座が一日、津島市藤浪町三の市文化会館であり、市内の小学生親子ら二十人が参加した。

参加者は「夏休みの思い出をテーマに、鷲尾さんから「シンプルに描こう」などとアドバイスを受けながら、縦一七、横五のキャンパスに絵を描いた。完成後、キャンパスから絵をはさみで切り取り、鷲尾さんが金具で木枠に止めて作品に仕上げた。

夏休み中に家族で訪れた東京スカイツリーを描いた津島市東小五年の住田真佳さん(〇)は「明るい絵にしたかったんで、スカイツリーをカラフルにした。うまく描けてうれしい」と笑顔を見せた。

大きなキャンパスに思い思いの絵を描く子どもたち。津島市藤浪町三の市文化会館で。

